

## 5. 第一回目懇親会開催に当たっての幹事苦労話

### 1) 卒研生名簿作成において感じたこと

倉本敏雄

名簿調査で最初に必要なのは、卒研生の名前を把握することでした。今井先生から全体の約70%を、卒研生から残りの30%を聞きました。名前は分かっても住所、電話など連絡先が分からない場合は、勤務先、大学部活動先、同期卒研生、大学友人など各方面への問い合わせによって少しずつ調べていきました。一人を捜し当てるのが実に大変で、これが名簿作成上最も苦労した点でした。

次に、卒研テーマについては、ほとんどの人が正確な名前を覚えていません。これに対して、本人に卒論を探してもらい、今井先生に当時の発表論文の謝辞から卒研内容を調べてもらい、本人に電話で卒研内容を思い出してもらい、その内容からテーマ名を即決するなどの方法によって何とか格好をつけました。

最後に職位を注記することですが、これは基準が明確でなく、職位呼称に普遍性がなく、公平さを保つことが極めて難しい事柄です。あらかじめ分かっている人以外は基本的に自己申告制にしましたので、記入漏れがあるのではないかと心配しています。

以上で欠陥を残したまま名簿を完成させましたが、いずれ改訂の必要性が生じることと思います。また、名簿作成がきっかけとなり、これまで連帯のとれていなかった卒研生の集団が少しずつ集合し始めたことはささやかな成果ではなかったかと考えています。

お蔭様で、7月には第一回懇親会を開催することが出来、これまで全く知らなかった人達が親しみを持ってお会いすることが出来たことはこの上ない喜びです。

### 2) 第1回懇親会幹事引き受けの経緯

狩野哲光

今年の5月始め、倉本さんから電話があって、卒研生の懇親会をやりたいので幹事をやってくれないかということでした。ご本人は大阪で地の利がよくないので東京に住んでいる人をお願いしたいということです。尤もなことと思い、得意先のY電機に頻繁に通う道でもあるし軽いノリで引き受けました。倉本氏から、「もう一人坪井さんをお願いしたから」と聞いて、学校時代は割に会話した記憶もあり、なんとなくうまくやれそうな気がしました。

活動をはじめるにあたっては、例の労作の名簿以外はどの情報ももらっていませんでしたし、何よりご依頼主であられる今井先生とは、云十年信号途絶状態(申し訳ありません)だったのでどんなお考えをお持ちか、現在の人となりの手がかりもなく、まずは先生の頭の中のイメージを開示していただくよう考えました。(潜在意識では手取り早く聞いてしまおうと言う処理心があったのかもしれません。)

そして、何月の何曜日頃、場所(会場)のイメージ、宴会費概算についてメールし、今井先生のお考えをお聞きしたところ、先生は極自然に懇切なご回答を下さったのでそのまま滑り出すことができました。

### 3) 幹事を引き受けて

坪井孝光

「今井研の幹事役を」と言われ、先生への恩返しとばかりに二つ返事で引き受けた。まずはパソコンを覚えなければならない。娘に教わりながら何とか往復ハガキを出すところまでは出来たが、7月半ばにこの娘も甲府の地へ嫁いでしまったから大変。パソコンの先生が急にいなくなってしまったのだ。

ワードの本を初めて開いてみた。今までなんと安直に、人を頼りにやってきたことかと反省しきり。

「幹事役をしている間がパソコンを覚えるチャンス」と決心した次第です。

### 編集後記

本号の完成にあたっては今井哲二先生よりあれこれ指摘を受けてきた点が少なくなかった。古い写真が鮮明に蘇ったのは倉本敏雄氏の画像処理技術に負っている。皆さんからの原稿は貴重な財産であり粗末にしてはならないという思いで、完成に至るまでの編集に取り組んだ。

本号編集担当 : 坪井孝光

# 第一回 『通研・今井研卒研究生の会』 懇親会

2002.7.26 於 NTT 武蔵野研究開発センター内 『華迎』



後列左より：橋本 潔、狩野哲光、武井邦之、浅倉晴雄、伊藤恭弘、  
安原信彦、坪井孝光、帯谷達郎、

中列左より：梅枝茂弘、八木原彬殷、小野雅敏、鈴木威一、高井謙次、  
松浦 悌、

前列左より： 雪野 健、今井哲二博士、島田慶甫、倉本敏雄



佐藤秀吉さんとその門下生を中心に

佐藤秀吉さんの一刻も早いご快癒を祈念し、些少なから寸志  
を差し上げ、お見舞いの詞を述べた。

〔 『通研・今井研卒研究生の会』：第一回「懇親会」の折に 〕  
平成14年7月26日 於NTT武蔵野研究開発センター内「華迎」

( 前列：左より、島田、小野、松浦、帯谷、佐藤、今井  
後列：左より、倉本、橋本、浅倉、武井、伊藤、高井、鈴木、雪野、梅枝 )